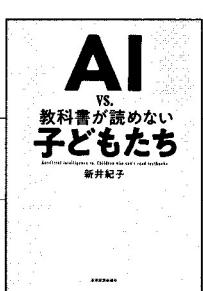


AI（人工知能）の正解率が80%の正解率が80%を越える「係り受け」や急速に研究が進んでいる「照心」と、AI（人工知能）は、学力に懸念を抱いて、RST（読解力調査）を開発した。これは、新井氏は、学生の基本的読解力を測るため、RST能力値と旧帝大進学率との相関が非常に高いという結果が示される。超有名私立中高一貫校は、12歳の段階で高校3年程度の読解力をある生徒を入れ試でふるいにかける。そのため、教科書や問題集を「読めばわかる」のだから、1年間受験勉強にいそしみば、旧帝大クラスに入学できてしまふ。評者は考える。多くの若者が、読解力不足のために「楽習」を味わえない状態が続くなれば、これは深刻な格差であり、社会問題と言ふべきである。

AIにはまだ難しくないと考えられる「同義文判定」、AIにはまだ難しくないと立たつた歯が立たない「推論」、「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」として、AIが不利益を被る題材」として、教科書から出題し、累計2万5000人の小中高校生のデータを収集した。

AIは、憶えたり計算したりすることは容易でも、教科書に書いてあることの意味を理解するのは苦手だ。それは日本の中高校生も同じで、AIで対処できない新しい仕事は、多くの人間にとつても苦手な仕事である。それが非常に高い。



新井紀子 著  
1620円 東洋経済新報社  
☎03-5605-7021

AIに多くの仕事が代替された社会では、労働市場は深刻な人手不足に陥っているのに、失業者や最低賃金の仕事を掛け持ちする人々が溢れるという「AI恐慌の嵐に晒される」と警告する。そのほか、RST能力値と旧帝大進学率との相関が非常に高いという結果が示される。超有名私立中高一貫校は、12歳の段階で高校3年程度の読解力をある生徒を入れ試でふるいにかける。そのため、教科書や問題集を「読めばわかる」のだから、1年間受験勉強にいそしみば、旧帝大クラスに入学できてしまうと言ふのだ。同時に、12歳以降でも、スマホの使用時間などとはほとんど関係なく、読解力の向上はできると氏は言う。

評者は考える。多くの若者が、読解力不足のために「楽習」を味わえない状態が続くなれば、これは深刻な格差であり、社会問題と言ふべきである。

（前聖徳大学教授・西村美東士）